

令和3年度 国立市立国立第一小学校 学校経営方針

国立市立国立第一小学校 校長 苫米地 高志

チーム一 7つの取組

学校教育目標

「自分で考え すすんで活動する子」○蓄えた知識や技能を活用して諸問題を解決する力
 「力を合わせて 高め合う子」 ○人を大切にする心や地域を愛する気持ちを表す行動力
 「思いきり体を動かし 元気な子」○心身の健康と自他の安全を目指す実践力

学校づくりのキーワード

人づくり 地域づくり 夢づくり の実現に向けて

- ☆ほめて伸ばす 子供はもちろん 大人も
- ☆チーム一 組織的な分掌 諸課題への対応 同僚性の強化
- ☆地域との連携 保護者・地域はチームの一員 とともに伝統の構築を

個と学校を大切にする感染症対策

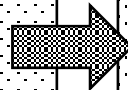
- 「一小的新たな日常生活」の実践
 - ・「3密」の回避、手洗い・うがいと消毒等の励行を、児童一人一人の資質として意識させていきます。
 - ・差別や偏見の気持ちが起らないように、計画的に、そして、適時的に指導していきます。
 - ・「できない」ではなく、「今だからできること」を創造していきます。
- 教職員・保護者・地域の方そして児童との協働での感染症対策
 - ・保護者ボランティア「ひまらや消毒隊」の意思を受け継ぎ、高学年の児童にも感染症対策の担い手となるよう、さらに意識化させていきます。

市や都の指針に基づいた校内体制の整備

- 「GIGA スクールPC」の日常化に向けた実践と「オンライン学習」へのアプローチ
 - ・授業のツールとして、PCを日常的に使用していきます。
 - ・「慣れる」→「使う」→「使いこなす」を目指して、利用方法と指導方法を創造していきます。
 - ・いろいろな場面を想定して、Google Classroomの活用を一般的なツールにしていきます。
- 特別支援教育の推進
 - ・特別支援学級「杉の子学級」との交流授業をさらに充実させていきます。
 - ・教室での学びを高めるために、特別支援教室「はばたき」での指導の共有を日常化させていきます。
 - ・担任との協働を通して、SS（スマイリースタッフ）による教室での個別支援をさらに充実させていきます。
 - ・校内委員会において、日常の支援体制の検証と就学に関わる支援体制を決めて行きます。
- 働き方改革の推進
 - ・校務支援ソフトを活用して、校務の時短やペーパーレスの会議を実践していきます。
 - ・教職員の在勤時間を週45時間に設定します。併せて、保護者への理解と協力も啓発していきます。
 - ・SSS（スクールサポートスタッフ）による校務支援の効果を、今年度も、さらに高めていきます。
 - ・現金をできる限り扱わない私費会計システムを、さらに推進していきます。

柔軟でしなやかな教育課程の立案・実施

- 「朝学習」（15分間の短時間学習）の実施による授業時間の安定的な確保
 - ・5・6年生は、英語科における15分×3の授業時間の効果を最大限に生かした授業を実施します。
 - ・1年から4年までの「朝学習」では、国語科や算数科の習熟過程を計画的に行います。
- 新学習指導要領への質的な対応と教育課題の重点的な対応
 - ・深い学びにつながる主体的な学びや対話的な学びを日々の授業で取り入れていきます。
 - ・付けたい力を明確にした授業を、日々、実践していきます。
 - ・各学年でプログラミング学習を実践し、検証をしています。
 - ・人権課題でもある多様な性に関する指導を4年生の内容に位置付けて実施します。
- with コロナそして after コロナを見据えた「今だからできること」を基調とした教育課程の編成
 - ・柔軟な思考としなやかな対応により、新たな形の行事や学習を立案・実施をしていきます。



その1 校内研究を通じた学力向上・授業力向上・組織的な教育力の向上・授業の質的転換

- 教員一人一人の目標達成を目指した校内研究→「国語科」「算数科」だけでなく深めたい教科を更に深める。
- 「一小 一緒に 学び愛タイム！」→「日々の指導場面を見合う」というスタイルでの教員相互の学び合い。一人6回以上 × 20人の教員 = 120回以上の「学び愛」 毎回、視点をもった協議を行う。
- 感染症対策の中なので「できない」ではなく、「今だからできる」スタイルの模索と実践
- ゴールは「主体的で対話的な深い学び」その実践を一步ずつ。

その2 地域や保護者、学校を支えてくれる人とのつながりを強化

- 世界企業「ヤクルト」との授業交流を目指して →6年理科の発展として
- 城山「さとのいえ」との人・もの・場所の交流
 - 各種イベントへの協力参加
 - 田んぼの管理は一小で 5年生での稲の観察の実施 →ホタルが舞うふるさとに ホタルの飼育（3年）と観察を
- ASSの活用を →5年の学力テスト対策を 担任との連携でいわゆる「補習」の展開への発展を
- 一小的児童中心の本町児童クラブと支え合う関係に
- 一小ソフトのメンバー発掘 →PTAサークルのソフトボールへの協力・支援
- 目指すは三中生、連携強化 →年度当初と2ヶ月前の連携・連絡の強化
- 平和教育の実施 →「被爆者体験の聴講」を6年で実施
- 谷保の自然の教材化 →年間を通じた「城山探検」「ママ下湧水の散策・観察」3年で実施

その3 みんなでやれば学力が伸びる 学力の向上＝指導力の向上

- 「わけをそえて」「伝え合い」を授業スタイルの根幹に。今だからできる「伝え合い」を全ての授業で実施。
- 基礎的知識や技能の習得
 - 全クラスで計画的な宿題の実施とやりきらず指導
 - 朝学習（15分学習）の年間計画の遵守、および、完全実施
- 各教科で問題解決型学習の実施
 - 課題把握、自力解決、検討、まとめを意識した授業を全クラスで（全ての授業は無理です。絞って効果的に）
- 学級づくりは授業力の向上から→授業力の向上が信頼関係を結ぶ。学力向上や望ましい学級経営、専科経営になる。
- 学力調査で結果をだす。 →まずは、余白なし、問題になれる。
 - 各学年での「絶対やりきるプロジェクト」今年もやりきる！
 - 「わけそえができる」「九九全員がマスター」「主語、述語を対応させた文章をかける」

その4 個を大切にすることで初めてできる集団、日々の徳育

- 「杉の子学級」との交流学級、交流授業 →日々の連携（報連相） 6年になるとときには、肩を組んで笑い合える関係を
- 「ほめる」「できる」「ほめる」の連鎖
 - ほめられるように指導、成功、ほめる の流れを教師がつくる。クラスの中の配慮児童を生かした学習、学級経営を
- 命の授業の全校実施 →生命尊重、いじめ撲滅を旗印とした道徳授業地区公開講座の実施
- 「はばたき」による個別の指導、学級での指導 →学級でのよい指導を目指して
- SS（スマイリースタッフ）の指導の充実（別掲）
- がんばりをみんなでたたえる雰囲気 →表彰大歓迎。その日その朝の報告でも表彰します。
- 各種行事での幼保との連携、園児との交流の促進 →スタートカリキュラムの実施と改善

その5 体力向上を目指したこれまでの取組を確実に実行する。

- 体力テストで結果をだす。分析を生かす。 →市の体育協会の指導の下、全学年で体力テストに備える。
- 体育の授業とともに、日々の全校での取組に期待 →長なわ、短なわ、持久走の強化月間等の計画的な取組を。
- 「今だからできる運動会」の立案・実施 →感染症・熱中症対策と児童・保護者に寄り添う細かな立案。
- 東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて →近代五種観戦8/5(金) 3～6年の全児童？ 教員全員で引率。
- オリンピックの精神をもとにした地域との関わりや講師の招へい、道徳授業の実施

その6 だれもまねできない開校148年 その誇りと自慢

- 「自慢の一小」をPR 子供が、教員が →全ての学級で自ら「あいさつ」を。みんなでやりきる。
 - きれいな環境を維持、継続。他校にも自慢できる教室や廊下や昇降口そして校庭の清掃 校内外の掲示
 - 手本は6年生。6年生を見上げる指導を伝統に。 →組織的な校務運営。すき間を埋める教員の動きも自慢。
- 「ふるさと谷保（やほ）発見」のマネジメント →地域の魅力を発見、地域に参画、地域の活性化に向けて
 - アンテナ高く。地域行事の共有そして参加を。 →4年生での「天神太鼓」の取組
- 「ふるさと」「国立市制50周年記念の歌」を歌い継ぐ。 →いろいろな行事で。音楽の授業で計画的な指導。
- 子供会への参加に学校の援助 →地域の願いの子供会への参加率Upを目指す。夏休み前に、地区班集会在校内で開催。
- 「開校150周年行事」へプロジェクト発動 →大枠の計画作成。主幹会等で草案作成。

その7 安心・安全 の実現

- 全ての教員で、朝の児童の登校を迎える。 →教室で迎える。玄関で迎える。校門で迎える。
- みんなで見守り「おかえりなさいの日」 →PTAの発案を、保護者、地域に広げていく。
- いじめ未然防止、早期発見、早期対応 →報連相で「いじめ対策会議」の早期開催、早期対応
 - 担任による毎日の声かけ →健全な学級経営が最大の未然防止 →専科は担当時間に必ず声かけや目かけを
- 登校しづらい児童や不登校児童に寄り添う。 →「家庭と子供の支援員」による個別対応と支援
- 避難訓練、防災体験 →6年間を通じた計画的な実施を今後も維持